

進捗状況の概要（1ページ以内）

【学内の実施体制】

平成 29 年度における「SIH 道場」の実施体制として、これまでの体制を継続している。大学教育委員会に理事（教育担当）を委員長とする「大学教育再生加速プログラム実施専門委員会」では、「SIH 道場」の実施に関する全体総括、授業設計コーディネーター等の人材の選出・割り当てを行った。総合教育センター教育改革推進部門では、FD や個別相談を行うことで授業設計や授業担者を支援した。コンテンツ作成ワーキンググループでは、「SIH 道場」で学生が使用する教材などの授業担者を支援するためのコンテンツ、授業のひな形などを作成した。

【中心となる取組】

本事業の中心となる取組は本学 1 年次必修の初年次教育プログラムである「SIH 道場」である。平成 29 年度の「SIH 道場」では全学で 15 プログラムが展開された。各プログラムの授業設計に関しては前年度の授業設計コーディネーターが作成した「プログラム設計評価シート」を参照することによって、前年度の成果を活かし改善を図った授業設計が実現している。平成 29 年度の授業設計コーディネーターによって作成された「プログラム設計評価シート」によると、15 プログラム中 13 プログラムが「SIH 道場」の達成目標である「早期体験」「文章力」「プレゼンテーション力」「協働力」の 4 項目全てにおいて「学生が目標を達成できた」としており、「SIH 道場」が適切かつ効果的に運用されていることが明らかである。さらに、各学部・学科の大学教育再生加速プログラム実施専門委員会委員が、学部単位での取組報告「SIH 道場の取組と課題」を作成し、プログラムの総括を行った。加えて「SIH 道場に関する評価・改善ワーキンググループ」において、「SIH 道場」を受講した 23 名の学生委員が「SIH 道場」の良かった点、改善点について、提案を行った。

【取組の成果】

こうした振り返りは平成 29 年 11 月に開催された「SIH 道場振り返りシンポジウム」において学生・教員の双方に共有された。さらに、年度末には「平成 29 年度徳島大学大学教育再生加速プログラム事業実施報告書」を発行し、平成 29 年度の取組内容について振り返り、学内外への報告を行っている。

【補助期間終了後の継続発展に向けた取組】

本事業において本学の初年次必修科目「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」（卒業要件）が導入され、学生と教員双方の成長と学士課程教育全体の質向上に繋げるための体制を整えることができた。また、学生と教員にアクティブ・ラーニングを促進するために授業計画から評価・改善に至るまでの PDCA サイクルが構築されており、毎年改良を加えながら各プログラムの質的向上が着実に進んでいる。補助期間終了後もこうした取組を継続的に実施するために、必要となる組織体制を維持する。具体的には、現在の学内体制を継続的に設置し、本事業で雇用した特任教員を学長裁量ポストでの雇用に切り替え総合教育センター教育改革推進部門に配置し、継続的に事業を牽引する。さらに、全学的に加速する教育改革をさらに発展させるために、当該部門による教学 IR、カリキュラム評価、組織的な FD を展開していく。

【学内外への波及効果】

AP 事業に関する取組は随時学内外へ情報発信している。学内へは、大学ウェブページへの情報提供の他、「SIH 道場」の取組概要の掲載、「SIH 道場」の学生用テキスト(PDF 版)を公開した他、「SIH 道場振り返りシンポジウム」を開催した。学外へは、「SIH 道場」の取組に関する口頭発表（ポスター発表含む）を 7 件、取組に関する報告はジャーナルに 1 件掲載された。また、徳島大学で開催された「平成 29 年度大学教育カンファレンス in 徳島」において学内の教員によるアクティブ・ラーニングに関する発表が 28 件あり、学外からの参加者 18 名を含む 154 名が参加した。この他、平成 29 年度より AP テーマ I 選定校の取組を紹介する「アクティブ・ラーニング・オンライン (ALO)」の公開、運用を開始した。これにより、今後随時徳島大学での取組の紹介、情報発信が可能となった。